

認知症になっても仲間がいる、介護でつらい思いをしているのは自分だけではないとの思いを力に、仲間や支援者とつながり、孤立することなく、認知症とともに生きること。これは、どんなに認知症に対する社会的理解や支援が進んでも、変わらぬ大切なこととして、「家族の会」が1980年の結成以来持ち続けてきた目標です。

認知症の人と家族の会の理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。

認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助けあって、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

**「認知症の人と家族の会」
と一緒に認知症の人も
ご家族も安心して
自分らしく暮らせる方法を
探しましょう**

つどいのご案内

日時：毎月第3木曜日 13時から15時

場所：神戸市総合福祉センター

※申し込み不要、参加費は無料。
会員以外の方でもお気軽にご参加ください

電話相談のご案内

《兵庫県民総合相談センター》

電話番号 078-360-8477 (祝日休み) 10時から16時まで

月曜日・金曜日：認知症の人と家族の会 対応
水曜日・木曜日：看護協会 対応

認知症の人と家族の会《本部》

フリーダイヤル 0120-294-456 (祝日休み)

月曜日から金曜日 10時から15時

公益社団法人 認知症の人と家族の会 兵庫県支部

〒651-1106 神戸市北区しあわせの村1-10神港園しあわせの家 内

TEL・FAX 078-741-7707

月・木 10時から17時

認知症でも 安心して暮らせる 社会を



認知症のことで困ったら
悩まないで、気軽に
認知症の人と家族の会に
ご相談ください!



公益社団法人

認知症の人と家族の会

兵庫県支部

認知症の人と家族の会は こんなことを行っています

つどい

家族の交流会 本音で話し合いができる「知恵」と「やすらぎの場」です。勉強会も行っています。



電話相談

電話を通じて支部世話人や介護経験者が相談にのっています。



会報の発行

本部発行、支部発行の会報「ぼ～れば～れ」を毎月送ります。ニュース、社会保障情報、お便りなど認知症に関する唯一の月刊誌です。会員からは「会報が心の支え」「知恵の宝庫」と言われています。



つどいのなかからご家族の想い



できるだけ在宅で介護をしたいので覚悟してやらないといけなと思っています。そのためには自分が元気でいなければ・・・

先のことを考えすぎるのもしんどいので、その日その日を大事にしていきたいと思えます。これまで自分の態度で妻が嫌な思いをしたことも一杯あったと思えます。人生のうちでトータルバランスがとれているのではないかと・・・良い時も悪い時もありますが、一生で考えると同じくらいだと思います。



わたしは介護中に倒れたこともあり夫を施設に預けることしか考えていませんでした。子供たちは母親が父親の介護をするものだと思っていてそれがつらいです。



父は今のグループホームに入居する前は皆から「大変な人」と言われていました。でも、その施設の相談員さんは、その大変さを「認知症だから」と言ってくださったので全面的にお任せしようと思えました。

啓発活動



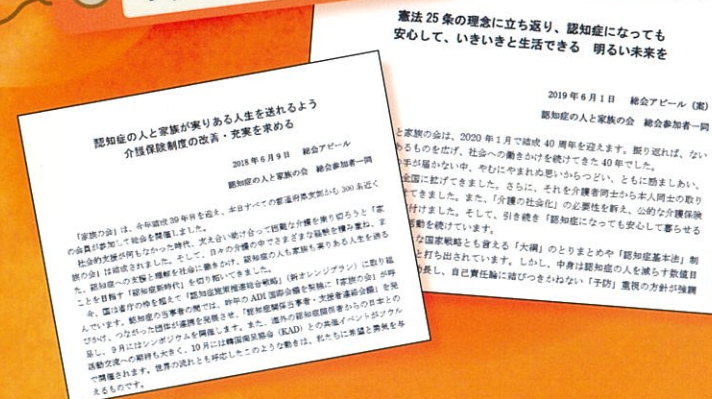
9月21日は世界アルツハイマーデーです。これに合わせて街頭でリーフレットの配布、啓発ウォーク、講演会やシンポジウムを開催して社会に啓発しています。

リフレッシュ行事



普段の介護の疲れを癒していただくイベントを行っています。

行政への要望



認知症の人の介護は、家族だけの力では限界があり、どうしても社会的に支える制度が必要です。そのため、結成以来一貫して、国、地方自治体に対して政策の充実を求める要望活動を行っています。

専門職の方の声



この認知症という病気は長く続くので心置きなく看送ることができません。急に亡くなった時これもしてあげればよかった、あれも・・・と悔いが残ると思いますが、この病気は長く関わってあげることができます。看取るまでの時間をできる限り大切に・・・と思います。

ご本人の声



「次に会う時みんなのこと忘れていたらごめんね」と冗談まじりで言う。「大丈夫、おまえが忘れても俺たちが覚えているから」と言ってくれました。それまでみんなとの仲がぎれてしまうのではと心配していましたがすべて吹き飛びました。これから多くの人の顔を忘れてしまうかもしれませんが、でもみんなが私の事忘れないでいてくれる、だから忘れたっていいじゃない、そう思ってこれから生活していこうと思えるようになりました。

丹野智文(認知症当事者)